

「郡山市ともにあゆむ・ともに生きる
～認知症になっても よりよく暮らしていくために～」
を発行しました

平成 31 年 4 月 22 日
郡山市保健福祉部
地域包括ケア推進課
担当：千葉 静香
TEL：924-3561

認知症の人の視点に立った支援体制の充実に向け、「郡山市ともにあゆむ・ともに生きる～認知症になってもよりよく暮らしていくために～」を発行しました。



認知症の診断を受けた方や初期段階の方にとって、必要な支援が限られている「空白の期間」の解消を図り、早期診断から早期の支援へ円滑につながる地域での支援体制の構築に向け発行しました。

※ 空白の期間

認知症診断直後や認知症初期は、介護保険サービス等には適さず利用できるサービスが限られています。

この時期に「ちょっとした支援」をすることにより、本来持っている本人の力を引き出し、生活状態の悪化を防止し、自分なりの生活を維持することが可能です。

「空白の期間」の解消は、本人・家族、そして地域全体において重要な課題です。

※ 発行にあたり、認知症介護研究・研修東京センター研究部長 永田久美子様、及び一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ様のご協力をいただきました。

※ 認知症の方が安心して暮らせるまちづくり連携協定（H30.10.23）により、エーザイ(株)様から提供いただいた「よりよい日々のためにわたしの手帳」を別冊で添付しています。

※ 地域包括ケア推進課の窓口で配布するほか
このQRコードからダウンロードできます。



○活用していただきたい方

- (1) 認知症疾患医療センターから認知症と診断された方
- (2) 認知症初期集中支援チームから支援対象者
- (3) 高齢者あんしんセンター（地域包括センター）から相談者等

※ この冊子の提供にあたっては、本人の心情・心理をできる限り理解し、不安の軽減を図るなど心理的支援に努めてまいります。

＜郡山市の認知症施策の取り組み＞

認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域の環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、国の認知症施策総合戦略（新オレンジプラン）の7つの柱に沿って、各種施策に取り組んでいます。

今回、その一環として本冊子を作成しました。